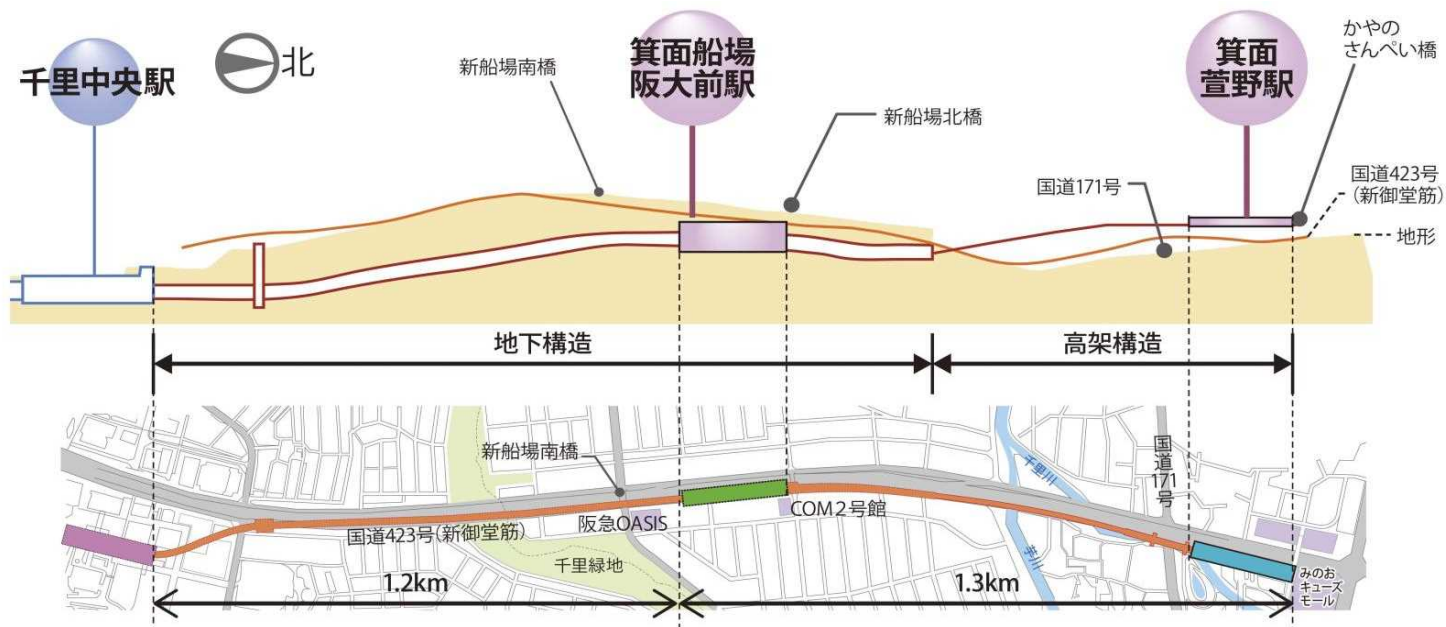




補足資料

1. 外部環境の変化
2. 前回の校区再編の考え方
3. 議論された課題

北大阪急行電鉄南北線延伸線が令和6年3月23日に開業



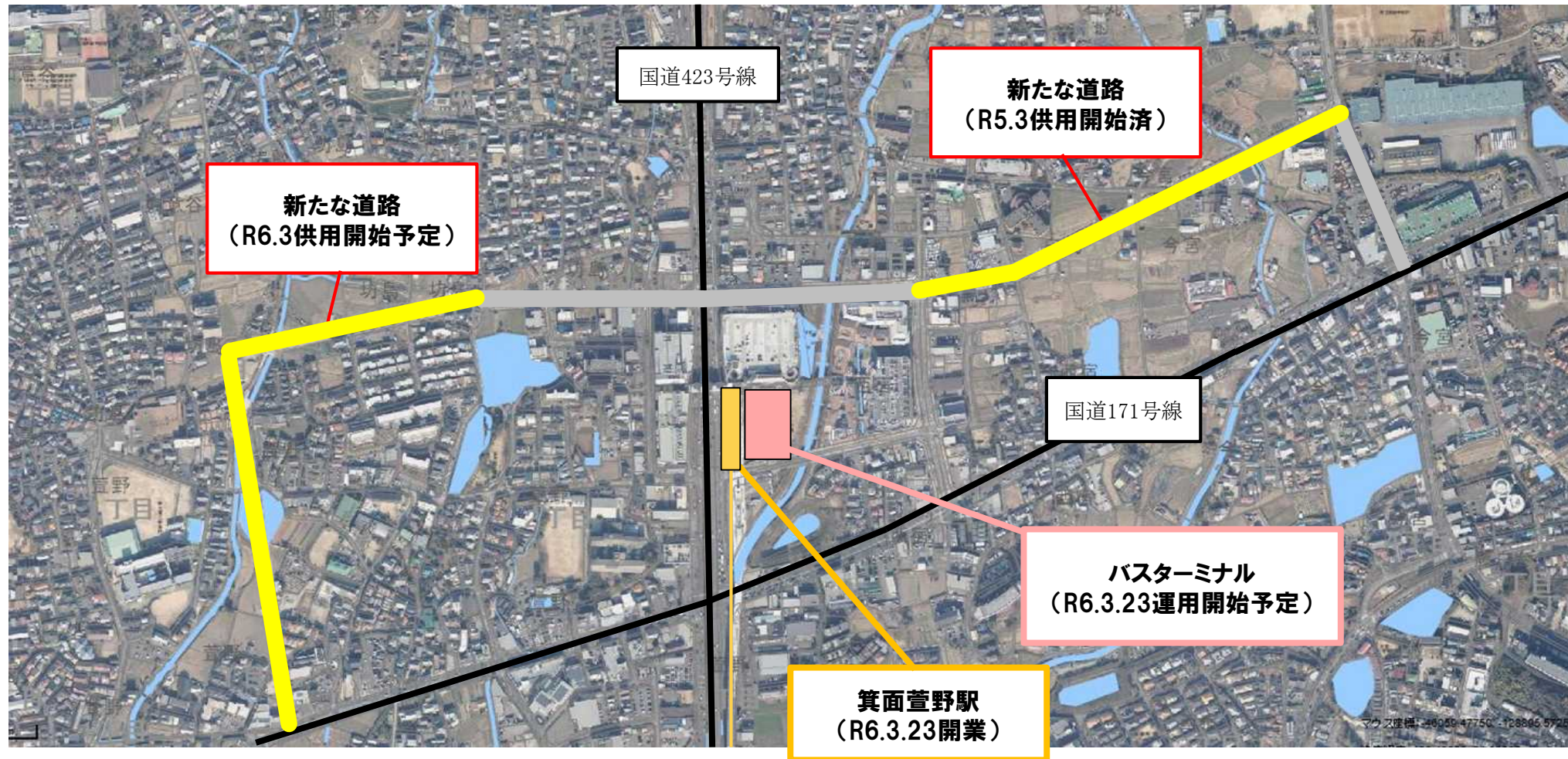
箕面船場阪大前駅 イメージ

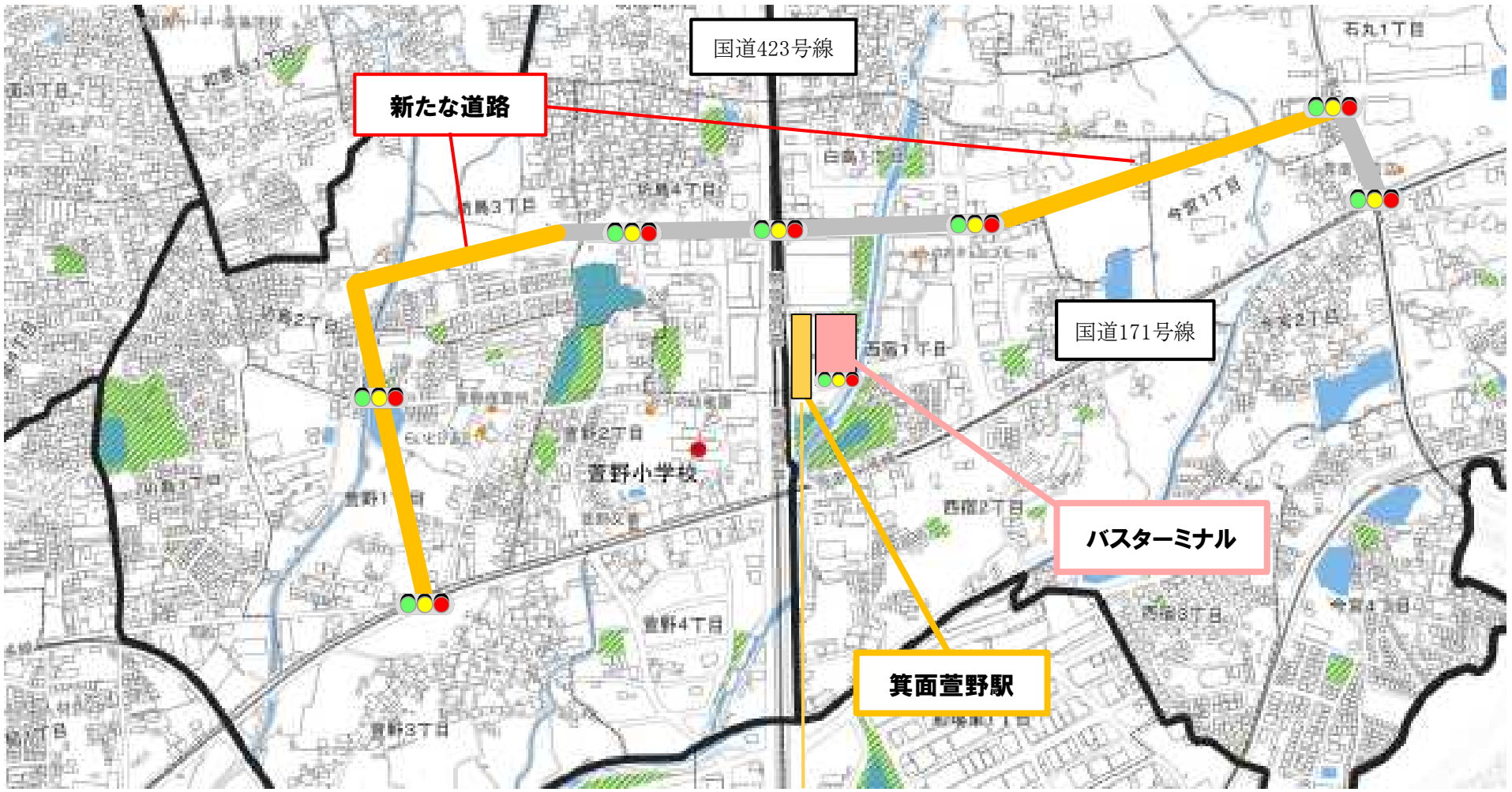


箕面萱野駅 イメージ

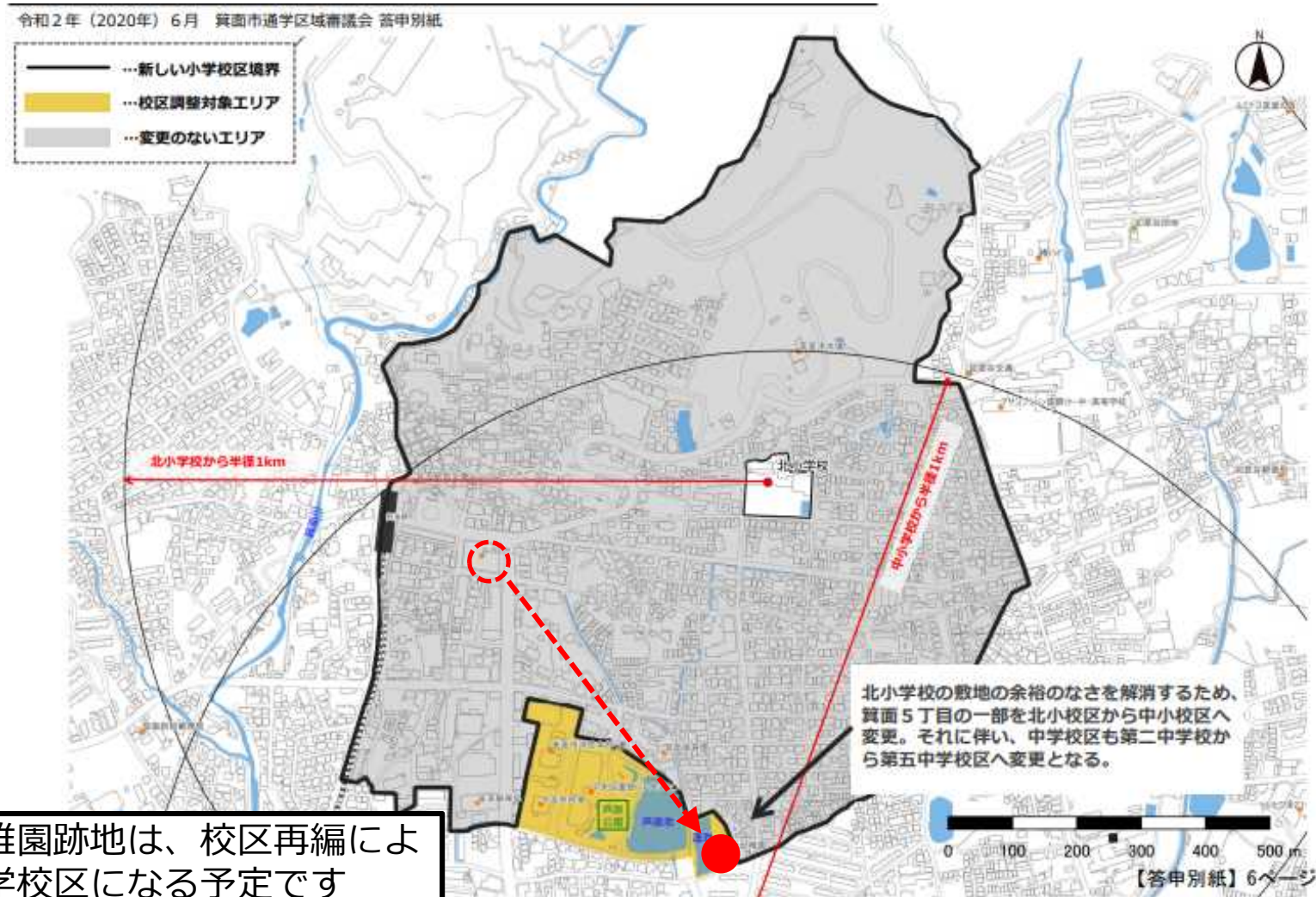


- 箕面萱野駅にバスターミナルが整備されます。
- 箕面萱野駅周辺に都市計画道路が整備されます。





北小地区福祉会の活動拠点が、サンプラザからなか幼稚園跡地に移転（R6.10頃）



なか幼稚園跡地は、校区再編により中小学校区になる予定です

川合・山之口地区の開発 (R8~R12予定)



* 業務代行予定者提案資料 (令和5年1月)

令和8年度~令和12年度にかけ、順次開発完了予定

- 小学生の登校方法が、集団登校から地区別登校にシフト

令和元年度まで	市内一律で集団登校（班登校）を実施
令和2年度	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の一環で、年度途中から集団登校を見合わせ
令和3年度	各校区ごとに登校時における課題が異なることから、登校方法を各学校の裁量とした。
現在	現状、集団登校を採用してる学校はない。

- 小学校の登校時間を約15分遅らせた。

- これまで、小学生は8:00前後に学校に到着することが多かった。
- 小学校教職員の勤務開始は8:30であったことから、教職員出勤までの30分間、学校内での安全確保体制が確立できないことが課題であった。
- 協議・検討を重ねた結果、令和2年度の2学期から小学校教職員の勤務開始を8:15とし、児童は8:15を目指して登校することとした。

■ 過去の検討時のポイント：長期にわたって安定的な校区をめざす

小学校区は様々な地域コミュニティの活動単位になっているため、何度も校区を変更するということとは現実的ではありません。

全市的な校区調整によって、**長期にわたって安定的な校区**とすることをめざしました。



「長期にわたって安定的な校区」をめざすためには、短期的なメリット・デメリットに左右されない冷静な議論が必要でした。そのため、以下の視点を考慮しながら校区調整を進めていきました。

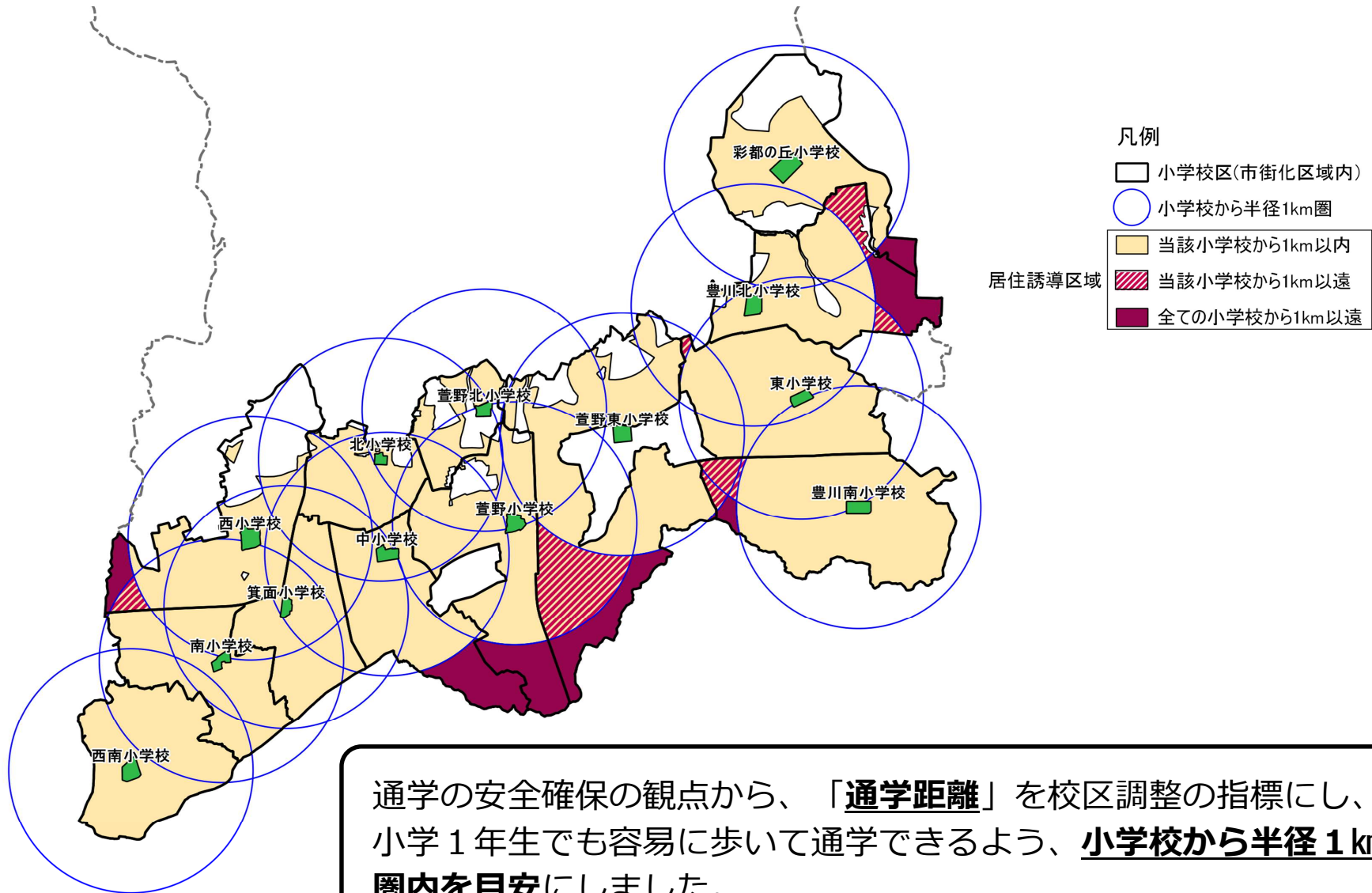
1. 通学条件の視点

通学距離が遠すぎず、歩いて容易に、かつ安全に通学できること

2. 教育環境（学校の過密さ）の視点

人口増減に極力左右されない指標で校区の規模を検討すること

1. 通学条件の観点からの指標



通学の安全確保の観点から、「通学距離」を校区調整の指標にし、
 小学1年生でも容易に歩いて通学できるよう、小学校から半径1km
圏内を目安にしました。

2. 教育環境（学校の過密さ）の視点

例えば、小さい学校に多すぎる児童が通うことになると、教育環境が悪化してしまいます。教育環境の観点では、学校の大きさに対して適正な児童数であることが重要です。

学校の大きさに対して
児童数が程良いと、
教育環境が良い



学校の大きさに対して
児童数が多すぎ過密になると、
教育環境が良くない



教育環境の観点からは、「学校の過密さ加減」を見る指標が必要です。

学校の過密さ加減を見るために、敷地または校舎面積100㎡あたり何人の児童がいるかを計算すると、過密な学校とそうでない学校では、2倍以上の差があることがわかります。

※児童数は過去の校区再編検討時のものです

	萱野北小学校	西小学校	豊川南小学校
児童数	270人	828人	885人
児童数／学校敷地面積 (100㎡あたり)	2.0人	3.6人	4.4人
児童数／校舎面積 (100㎡あたり)	4.2人	10.4人	10.7人

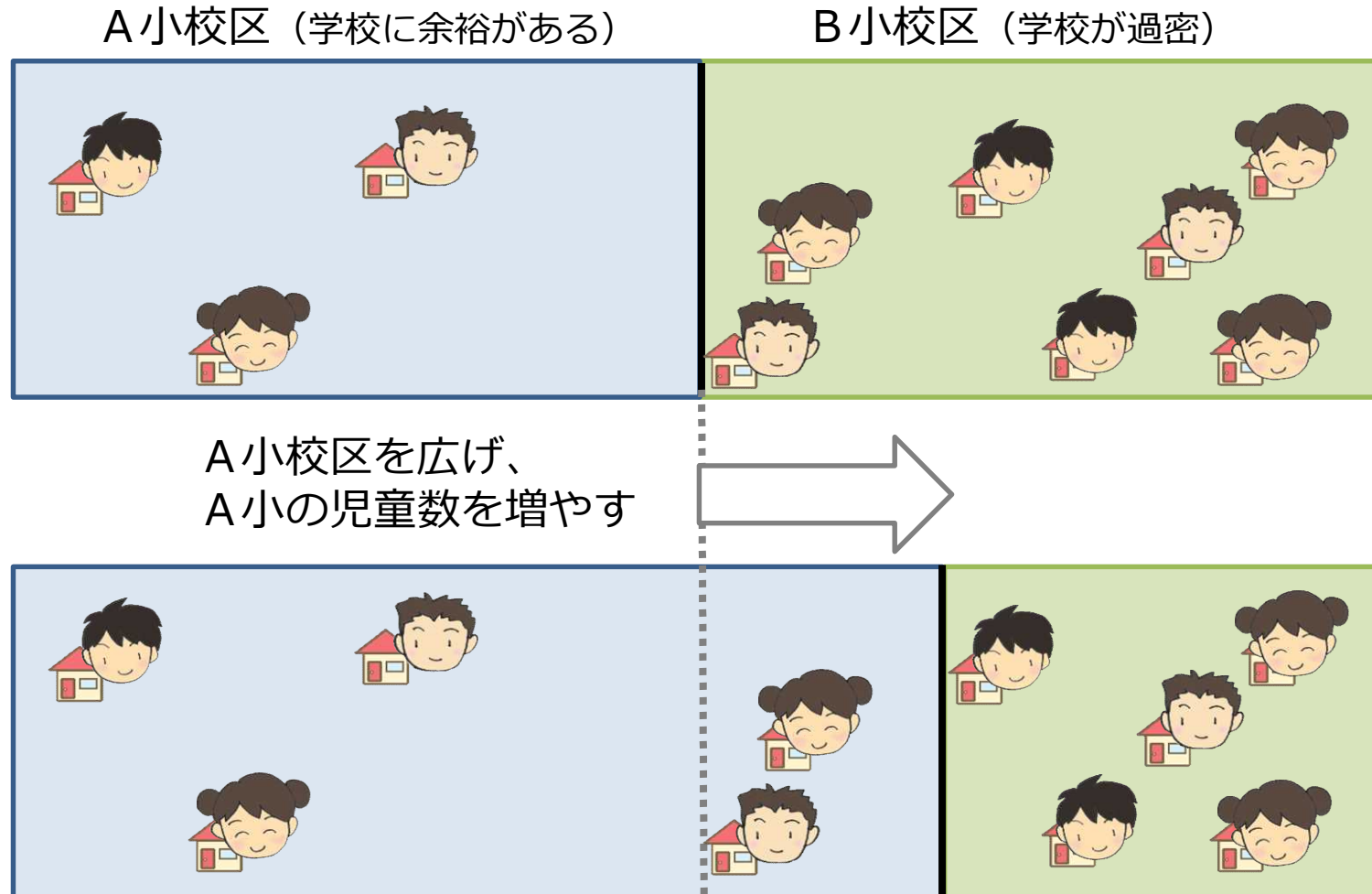
2倍以上の差がある

この差が大きすぎると、**学校によって教育環境に大きな差が出てしまう**

**学校の大きさに合わせて児童数を調整し、
学校間の過密さ加減をなるべく均等にしていけることが必要**

■ 過密さ加減の調整のしかた

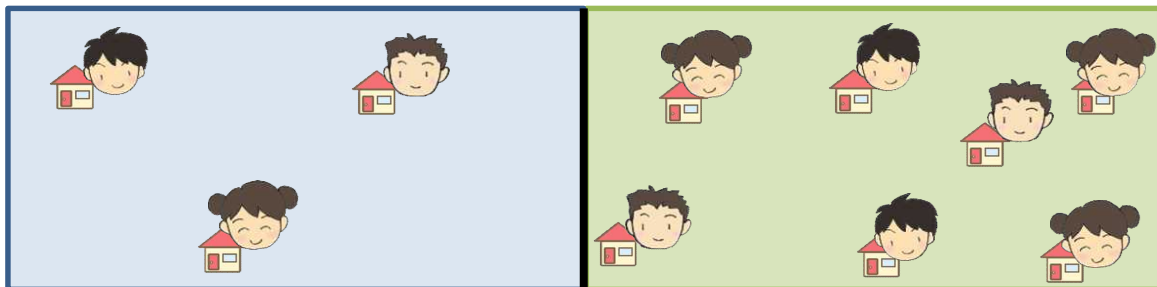
- 学校の過密さ加減を均等にするためには、学校の大きさを調整するか、児童数を調整することが必要です。
- しかし算面市においては、学校の大きさ（敷地面積）をこれ以上広げることは容易ではありません。
- よって児童数の調整が必要になります。児童数の調整とは、すなわち**校区の広さの調整**です。



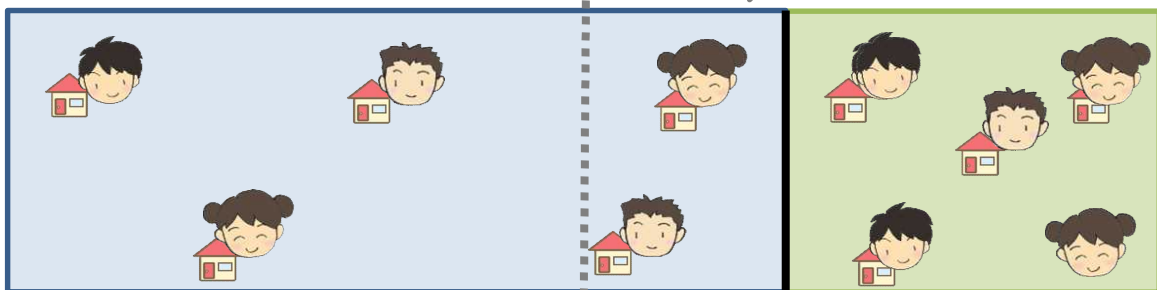
■ 仮に、今の児童数で校区を調整すると

A小校区（学校に余裕がある）

B小校区（学校が過密）



A小校区を広げ、
A小の児童数を増やす



仮に、今の児童数に合わせて
校区を調整すると、
今の時点での過密さ加減を
均等にすることができ、



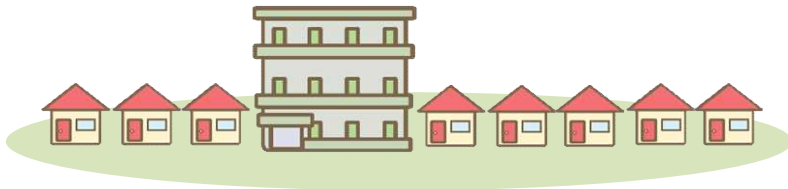
今後、A小校区に児童が増えたりB小校区で減ったりすると、
また校区を調整しなければならなくなる



**長期にわたって安定的な校区とするには、
人口の増減に影響されない指標を使って
校区を調整する必要がある**

■ 「人口増減に左右されない児童数」の指標とは？

「ある瞬間の児童数」を使っでは、何度も校区調整をくりかえすことになってしまうので、指標としては不適切です。そこで、その校区の持つ「住民の受け入れ能力」＝「その校区にどれくらい人が住むことのできる容量があるのか」を考えます。



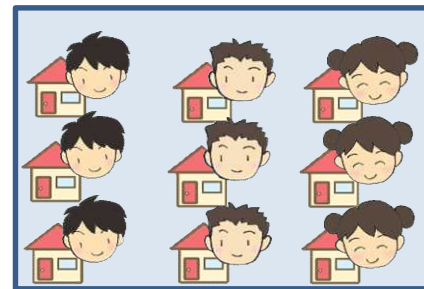
校区の広さ =
校区に人が住むことのできる容量



容量以上にたくさん人が住むことはできないので、「校区の広さ」は、その校区の児童数の限界を示す指標になります。

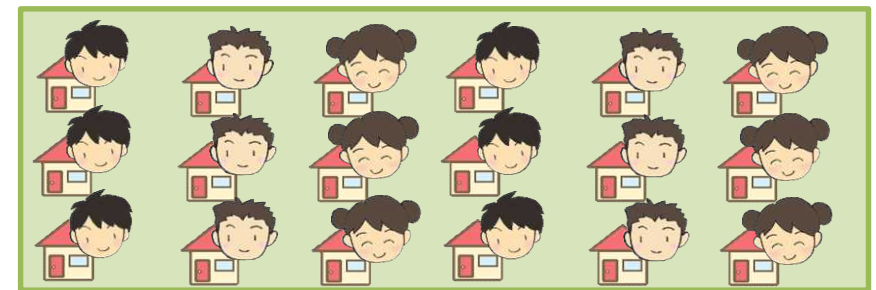
また、ある時点で実際にそこに住んでいる児童が何人だろうと、校区の容量は変わりませんので、人口増減に左右されることはありません。

校区面積が小さい



そこに住むことのできる児童数が少ない

校区面積が大きい

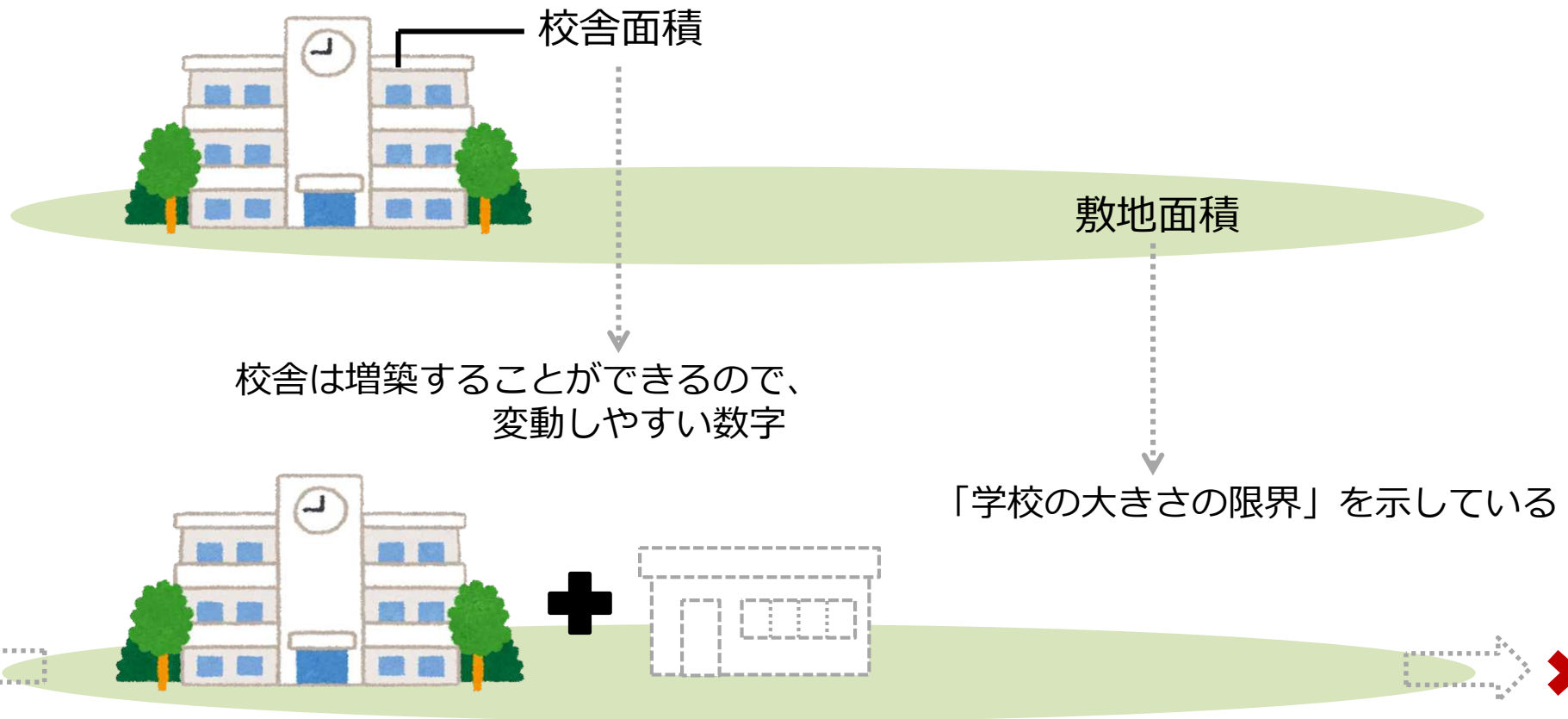


そこに住むことのできる児童数が多い

「人口増減に左右されない児童数」を表す指標として、**「校区面積」**を使用しました。

■ 「学校の大きさ」を表す指標とは？

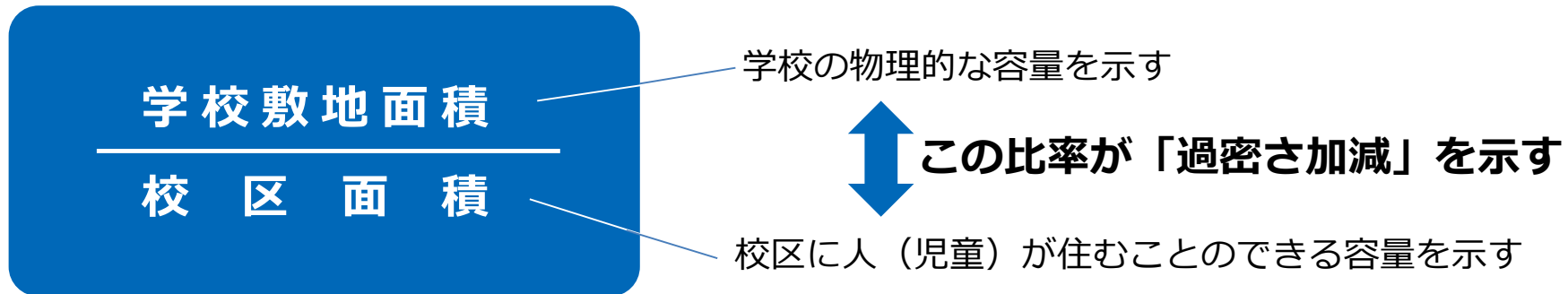
「学校の過密さ加減」を見るために必要な数字は、「学校の大きさ」と「そこに入る児童数」です。
このうち、「学校の大きさ」を表す数字としては、「敷地の大きさ（敷地面積）」と「校舎の大きさ（校舎の延べ床面積）」の2種類があります。



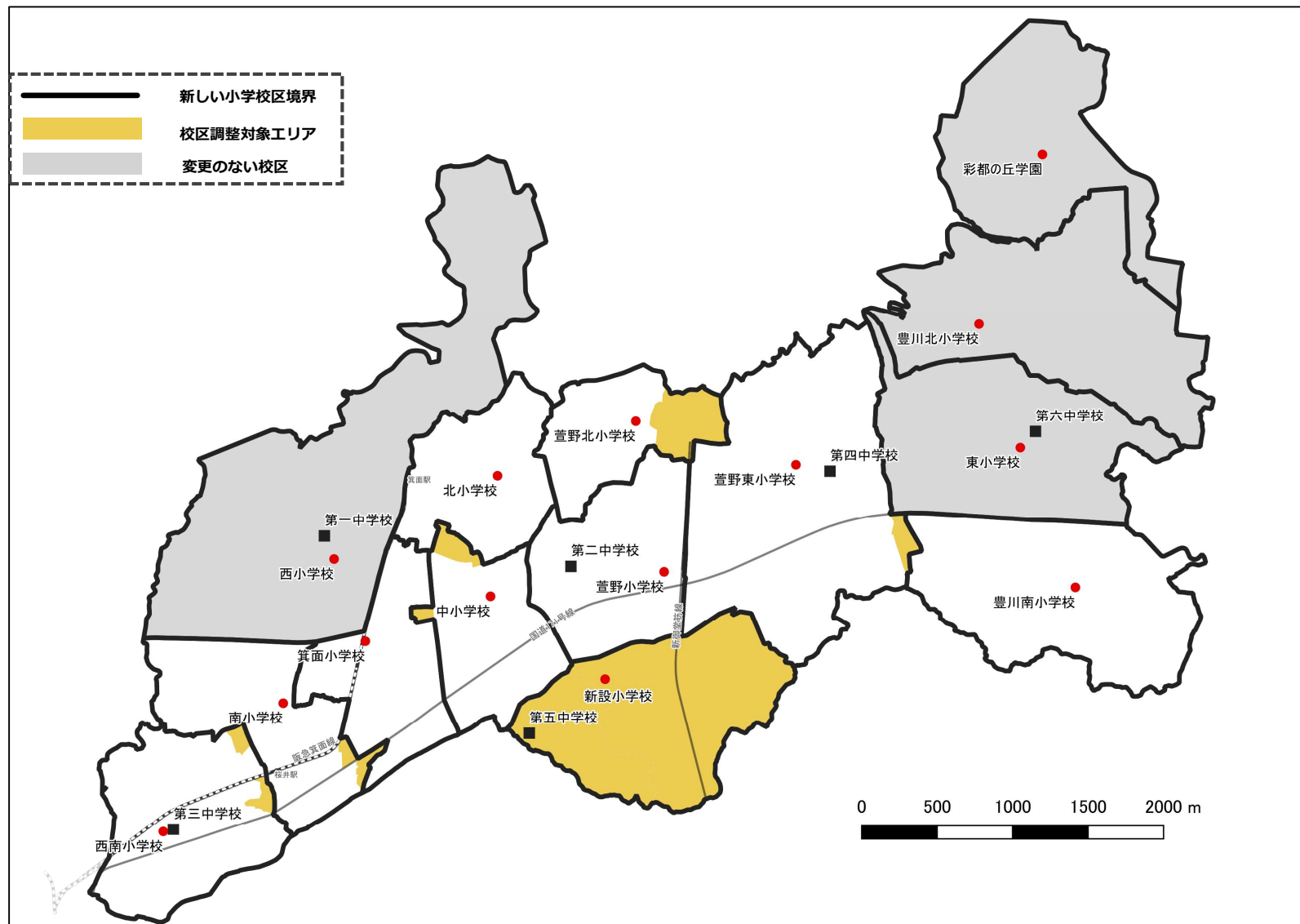
「学校の大きさ」を表す指標として、「学校敷地面積」を使用しました。

■ 「学校の過密さ加減」を見る指標

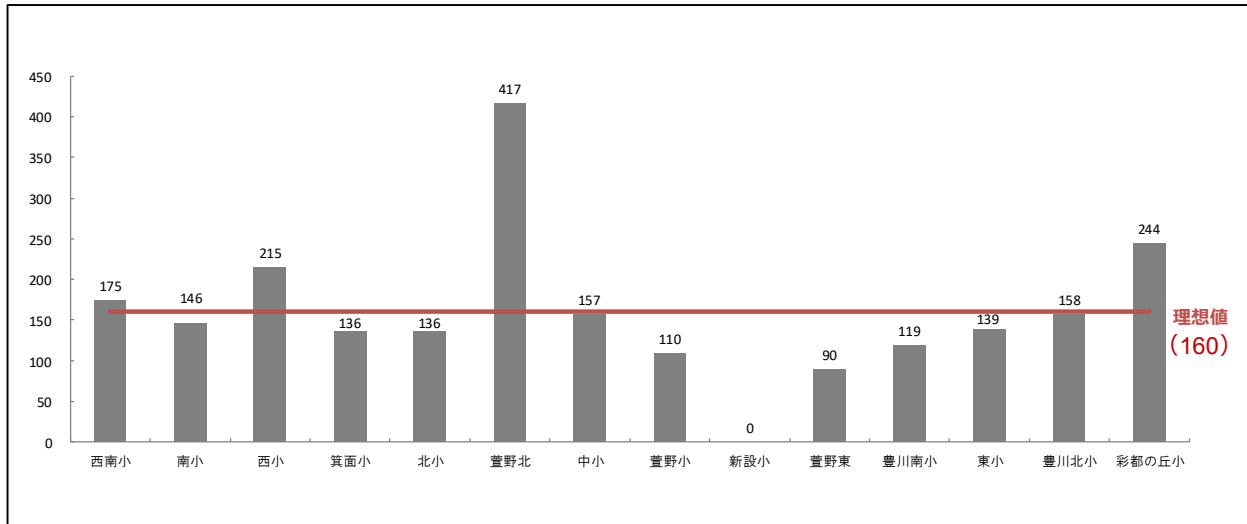
人口増減に左右されずに「学校の過密さ加減」を見る指標として、次のものを使います。



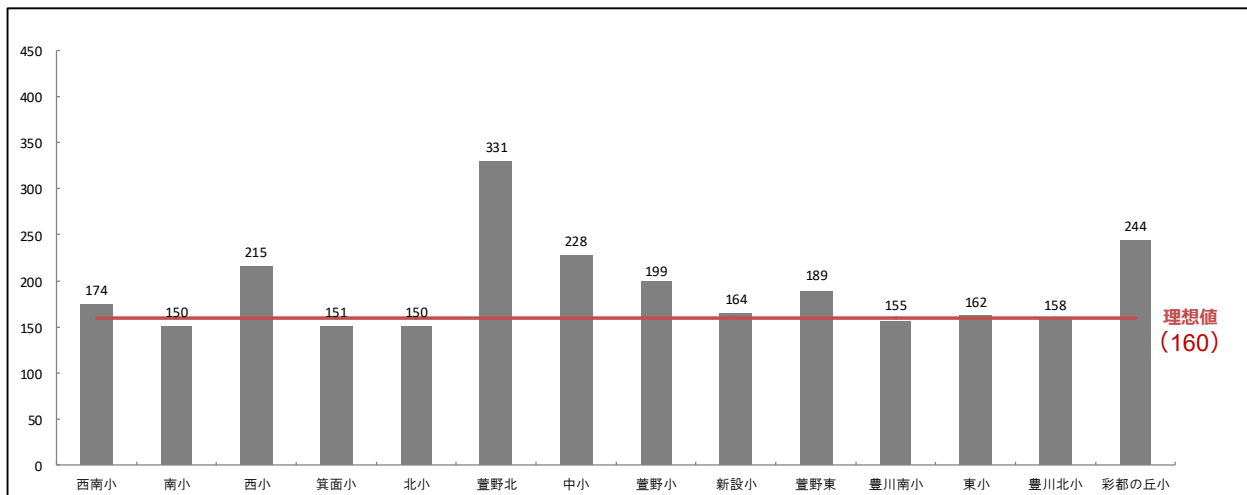
学校間の過密さ加減をなるべく均等にしていくためには、学校の大きさに合わせて児童数（校区の広さ）を調整することで、指標「学校敷地面積／校区面積」の値を、各校区においてなるべく均等にしていくことが必要と考えました。



再編前の指標数値



再編後の指標数値



【審議会・WS・パブコメ】

- ・ 避難所であるメイプルホールが校区外になる。

【ワークショップ】

- ・ 校区内に大きな公園がなくなる。
- ・ 北小地区福祉会などが「なか幼稚園」と関わりを持ってきていたので残念

【審議会・WS】

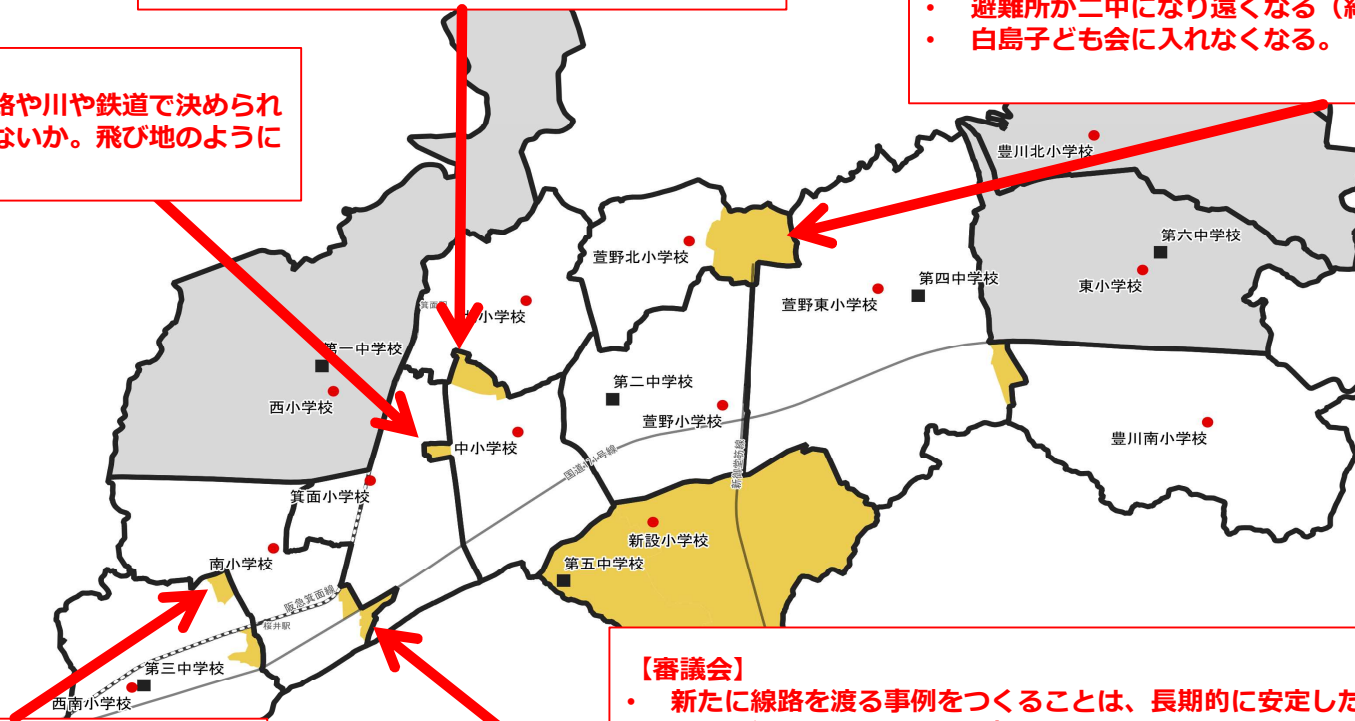
- ・ 白島自治会が分かれてしまうので心配

【パブコメ】

- ・ 国道423号線側道と山麓線の結節点の安全対策
- ・ 避難所が二中になり遠くなる（約850m⇒約1.4km）。
- ・ 白島子ども会に入れなくなる。

【審議会】

- ・ 校区は、幹線道路や川や鉄道で決められていくべきではないか。飛び地のように感じる。



【WS】

- ・ 西南小学校になることで通学距離が延びる（約300m⇒約950mに距離が延びる）。
- ・ 線路を横断することになる。

【審議会】

- ・ 新たに線路を渡る事例をつくることは、長期的に安定した校区再編という中では、禍根を残すのではないか。

【パブコメ】

- ・ 踏切を横断することになる。
- ・ 牧落第五自治会内で校区が分かれる。
- ・ 地区運動会に参加できなくなる。
- ・ 祭に参加できない。
- ・ 箕面小の子ども会に入れない。

新しい西南小校区案 (2032年度～)

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

- 新しい小学校区境界
- 校区調整対象エリア
- 変更のないエリア

指標 (理想値 160)	
再編前	再編後
175	174

【WS】

- 西南小学校になることで通学距離が延びる (約300m⇒約950mに距離が延びる)。
- 線路を渡ることになる。

WS・審議会で大きな反対意見なく合意できた地域

西南小学校から半径1km



新しい南小校区案（2032年度～）

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

- 新しい小学校区境界
- 校区調整対象エリア
- 変更のないエリア

指標（理想値 160）	
再編前	再編後
146	150

- 【審議会】
- ・ 新たに線路を渡る事例をつくることは、長期的に安定した校区再編という中では、禍根を残すのではないか。
- 【パブコメ】
- ・ 踏切を横断することになる。
 - ・ 牧落第五自治会内で校区が分かれる。
 - ・ 地区運動会に参加できなくなる。
 - ・ 祭に参加できない。
 - ・ 箕面小の子ども会に入れない。

- 【WS】
- ・ 西南小学校になることで通学距離が延びる（約300m⇒約950m）。
 - ・ 線路を渡ることになる。

WS・審議会で大きな反対意見なく合意できた地域



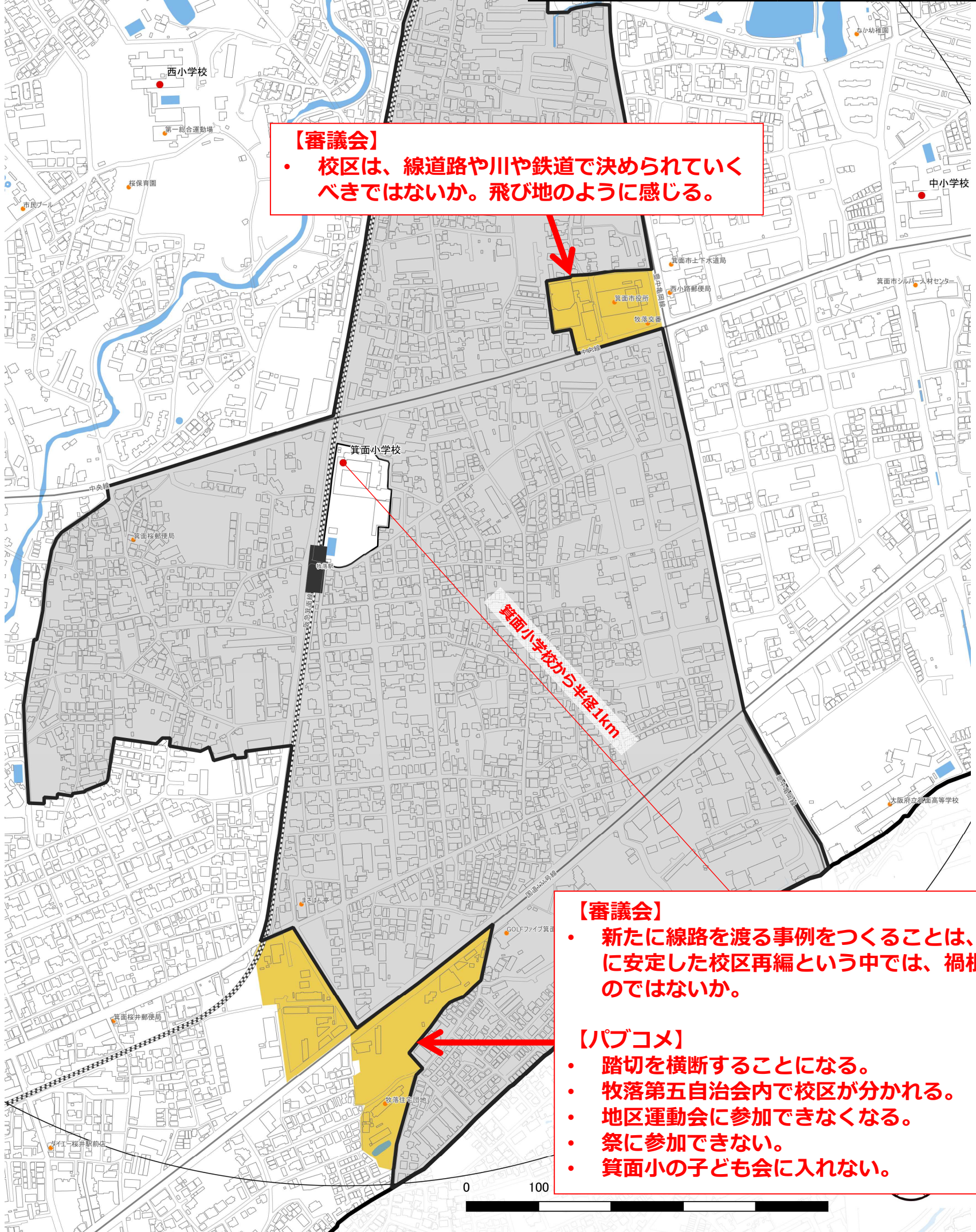
新しい箕面小校区案（2032年度～）

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

- 新しい小学校区境界
- 校区調整対象エリア
- 変更のないエリア

指標（理想値 160）	
再編前	再編後
136	151



【審議会】

- ・ 校区は、線道路や川や鉄道で決められていくべきではないか。飛び地のように感じる。

【審議会】

- ・ 新たに線路を渡る事例をつくることは、長期的に安定した校区再編という中では、禍根を残すのではないか。

【パブコメ】

- ・ 踏切を横断することになる。
- ・ 牧落第五自治会内で校区が分かれる。
- ・ 地区運動会に参加できなくなる。
- ・ 祭に参加できない。
- ・ 箕面小の子ども会に入れない。

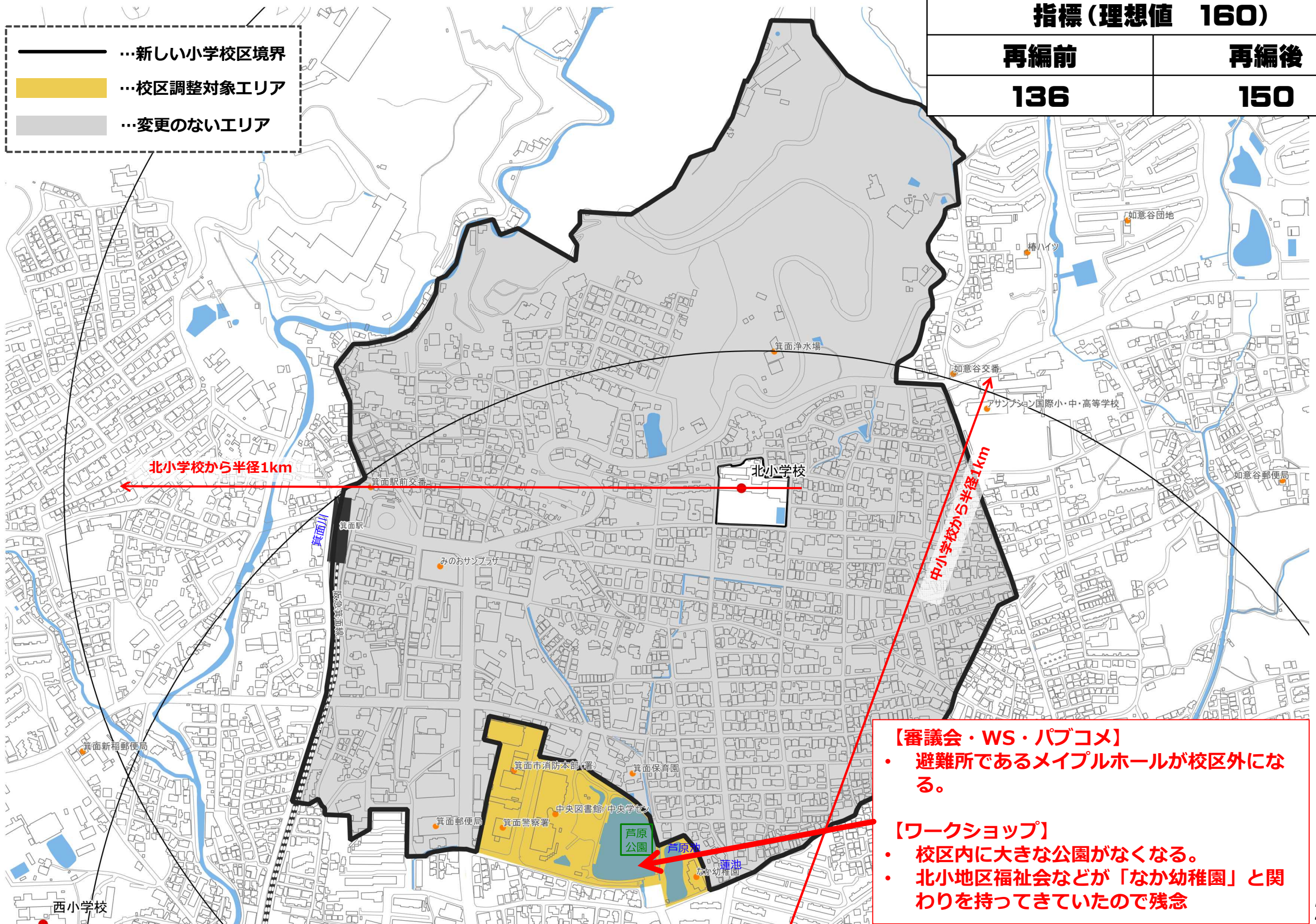
新しい北小校区案 (2032年度~)

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

...新しい小学校区境界
 ...校区調整対象エリア
 ...変更のないエリア

指標 (理想値 160)	
再編前	再編後
136	150



- 【審議会・WS・パブコメ】**
- ・ 避難所であるメイプルホールが校区外になる。
- 【ワークショップ】**
- ・ 校区内に大きな公園がなくなる。
 - ・ 北小地区福祉会などが「なか幼稚園」と関わりを持ってきていたので残念

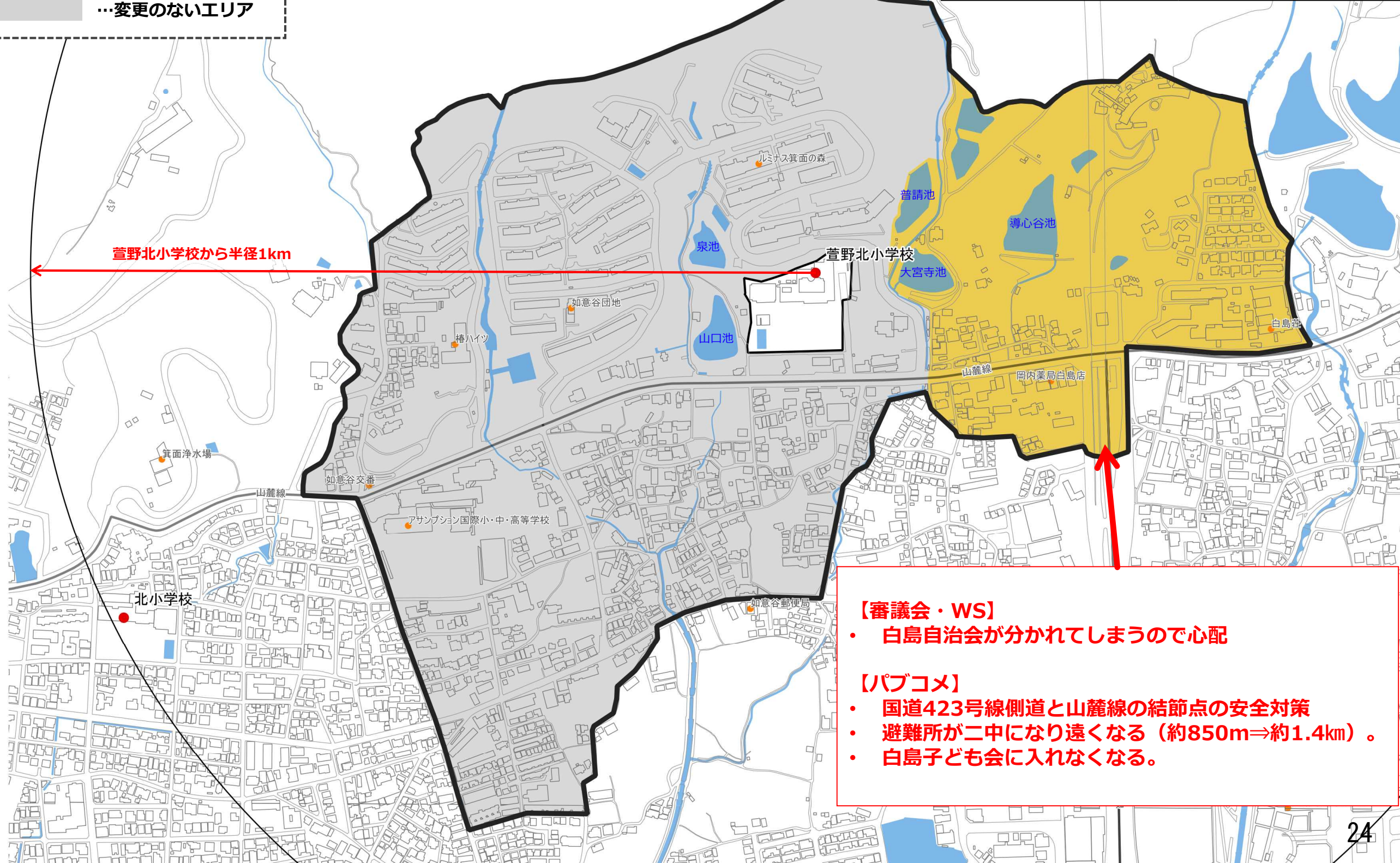
新しい萱野北小校区案（2032年度～）

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

…新しい小学校区境界
 …校区調整対象エリア
 …変更のないエリア

指標（理想値 160）	
再編前	再編後
417	331



- 【審議会・WS】**
- ・ 白島自治会が分かれてしまうので心配
- 【パブコメ】**
- ・ 国道423号線側道と山麓線の結節点の安全対策
 - ・ 避難所が二中になり遠くなる（約850m⇒約1.4km）。
 - ・ 白島子ども会に入れなくなる。

新しい萱野東小校区案（2032年度～）

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

- 新しい小学校区境界
- 校区調整対象エリア
- 変更のないエリア

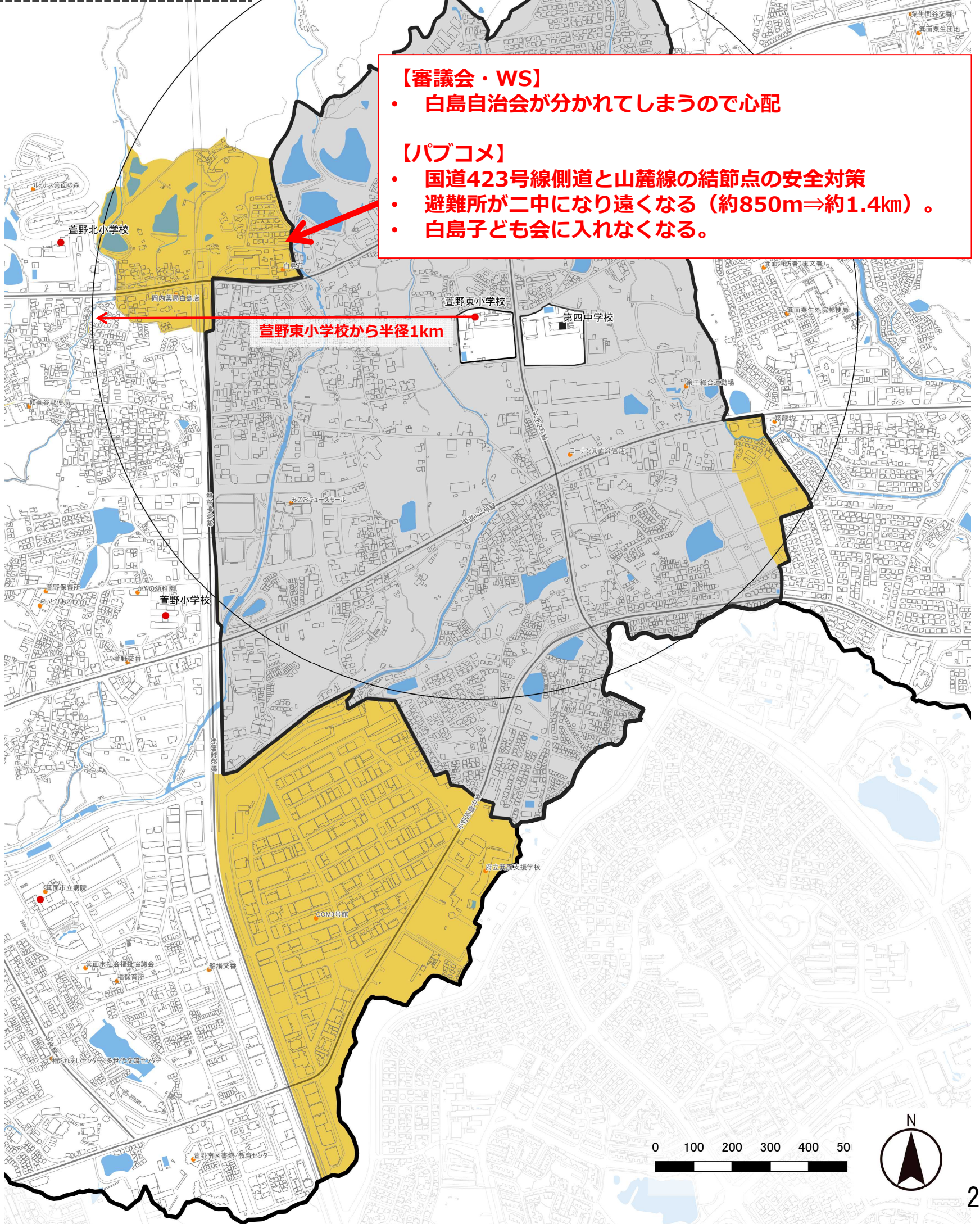
指標（理想値 160）	
再編前	再編後
90	189

【審議会・WS】

- ・ 白島自治会が分かれてしまうので心配

【パブコメ】

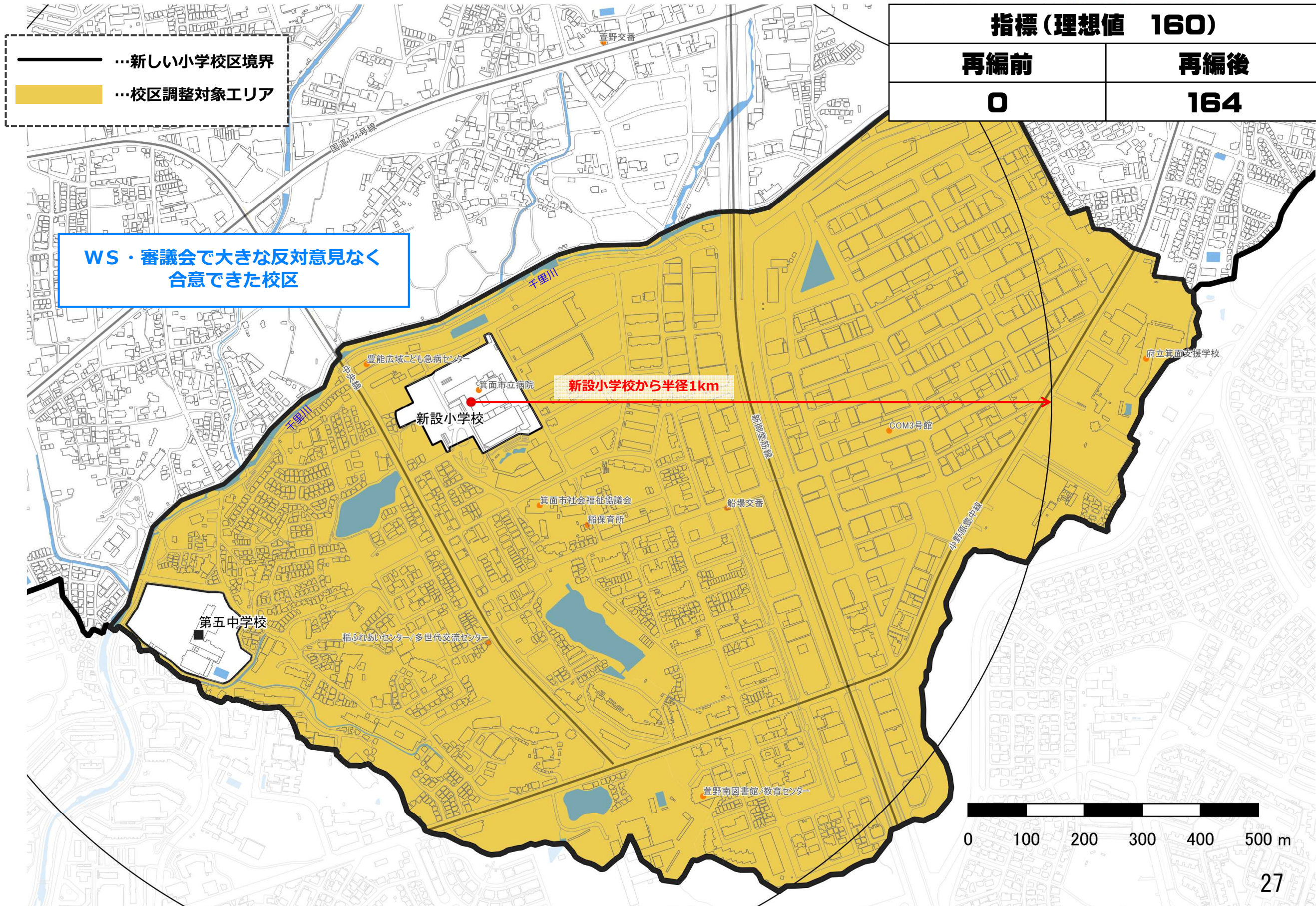
- ・ 国道423号線側道と山麓線の結節点の安全対策
- ・ 避難所が二中になり遠くなる（約850m⇒約1.4km）。
- ・ 白島子ども会に入れなくなる。



(仮称) 船場小学校区案 (2032年度～)

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

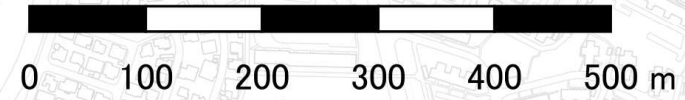


---新しい小学校区境界
---校区調整対象エリア

WS・審議会で大きな反対意見なく
合意できた校区

新設小学校から半径1km

指標 (理想値 160)	
再編前	再編後
0	164



新しい豊川南小校区案 (2032年度～)

3. 議論された課題

※この地図は審議会資料として作成したものです。建物等の情報は必ずしも最新のものと限りませんので、あらかじめご了承ください。

指標(理想値 160)

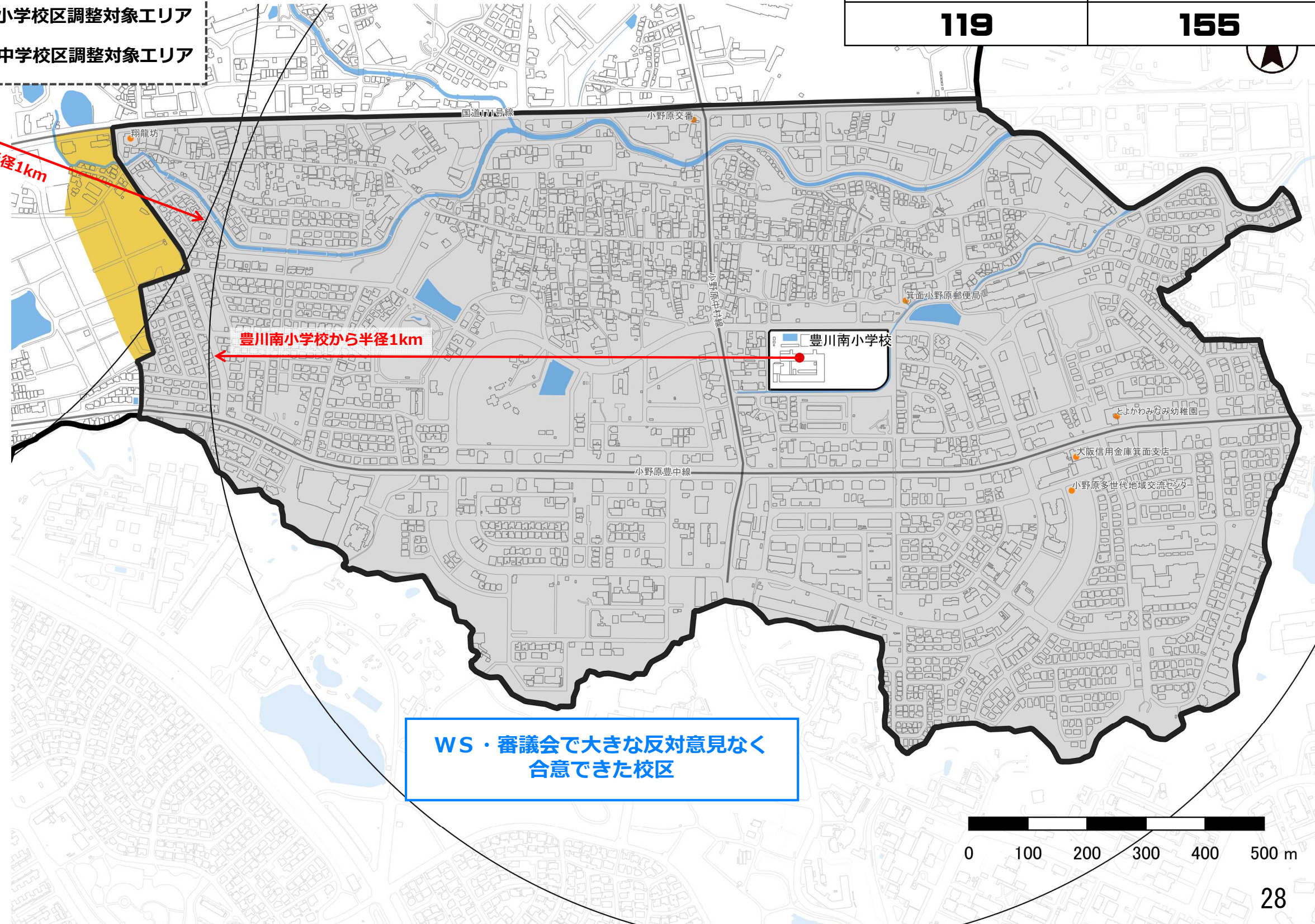
再編前

再編後

119

155

- 新しい小学校区境界
- 小学校区調整対象エリア
- 中学校区調整対象エリア



WS・審議会で大きな反対意見なく
合意できた校区